

## 海の科学講座への招待

海辺を散歩。夏には海水浴。釣りをする。海が好きで身近に感じている方は多いのではないのでしょうか。私たちが接している海は豊かな恵みや憩いを与えてくれますが、時には高潮や高波などにより、大きな災害をもたらすことがあります。

今回の講座では、対馬海峡や東シナ海など、普段身近に感じている海に焦点を当て、長期間にわたる観測からみえてくる海洋環境の変化、そこに棲む魚たちの多種多様な生態、さらには普段の生活に重大な影響を与えることがある高潮やあびきについて、観測データやこれまでの研究成果を基に、高校生など若い人をはじめ一般市民の方々にわかりやすく紹介します。海の不思議、未知の海に興味を惹かれる方、なんだかわからないけどおもしろそうだな、と思った方、この機会にぜひ参加してみてください。

## 講座内容・講師紹介

### 『対馬海峡 ～東シナ海と日本海の接点～』 講師：千手智晴（九州大学応用力学研究所 准教授）

九州北方に広がる対馬海峡は、東シナ海から日本海へ輸送される様々な物質が必ず通過する海域として、重要な意味をもっています。これまでの研究から、大陸の大河川（長江、別名揚子江）から流出した大量の淡水が夏季に対馬海峡に流れ込み、下流域である日本海的环境に大きな影響を及ぼしていることがわかってきました。また、地球温暖化の影響で、冬季の対馬海峡全体の水温が上昇し、それが生き物の分布にも影響していることが明らかとなってきました。講演では、私たちにとって身近な対馬海峡の環境変化を、長期間にわたる観測結果に基づき、わかりやすく解説します。



### 『高潮とあびき』

講師：西郷雅典（福岡管区気象台 地球環境・海洋課長）

九州は台風の常襲地帯であり、これまで度々、高潮による大きな災害が発生しています。また、「あびき」と呼ばれる、短い周期で起こる潮位の変動が九州では度々発生しており、海岸や河口付近の低地での浸水、港湾施設の破損、係留している船舶の流出・転覆といった被害が発生しています。「高潮」も「あびき」も九州の沿岸でよくみられる潮位の変動ですが、東シナ海や九州沿岸の湾の地形などが深く関係しています。講演では、毎日の潮の満ち引き（天文潮汐）の話から、過去に発生した高潮とあびきの実態についてご紹介します。



### 『東シナ海の魚の生態について』

講師：大下誠二（西海区水産研究所 資源海洋部 部長）

東シナ海は北に冷たい渤海・黄海があり、南に暖かい黒潮が流れるうえに、広大な大陸棚が広がっています。そのため、東シナ海は多種多様な魚が息する海です。中国大陸沿岸と有明海沿岸では地理的に離れていてもエツのような魚がどちらにも分布し、南西諸島付近では沿岸のサンゴ礁に生息する魚や、沖合には太平洋を縦横無尽に泳ぎ回るクロマグロまで分布しています。もちろん、食卓にのぼるようなアジ類やカレイ類のような魚も多く分布しています。本講座ではこのうち我々の食卓に身近な魚のあつと驚くような生態について、特に気候変動と魚の関係、食う - 食われるの関係の他、外洋に生息する大型の魚の行動についてわかりやすく紹介いたします。



## 司会進行



岸 真弓（気象予報士・気象キャスター・防災士）

プロフィール：群馬県出身。学習院大学文学部卒業。気象予報士、防災士。日本気象協会に所属した後独立。現在、気象キャスターとして、テレビ・ラジオに出演。防災についての講演など、精力的に活動。野菜ソムリエなどの資格も持つ。

問い合わせ：092-725-3613（福岡管区気象台 地球環境・海洋課）

共 催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、西海区水産研究所

後 援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、地球ウォッチャーズ - 気象友の会 -

ホームページ：<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/ocd/umikouza/index.htm>



地下鉄西新駅7番出口より徒歩約10分  
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。